



最初にお読みください

CentreCOM® 8624EL リリースノート


この度は、CentreCOM 8624EL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0688-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0688-02 Rev.B）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.6.4 pl07 (2.6.4-07)

2 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.6.4 pl06 から 2.6.4 pl07 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 拡張モジュール AT-A47


 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

 「取扱説明書」 15、115 ページ

拡張モジュール AT-A47 (GBIC スロット× 1) に対応しました。オプション (別売) の 3 種類の GBIC モジュールが実装可能です。

- ・ AT-G8SX 1000BASE-SX
- ・ AT-G8LX 1000BASE-LX
- ・ AT-G9ZX 1000M SMF (90km)

2.2 マルチプル VLAN (Private VLAN) と Protected VLAN

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」


ポート間の通信を制限できる特殊な VLAN、マルチプル VLAN (Private VLAN) と Protected VLAN に対応しました。

Private VLAN の所属ポートは、アップリンクポート、プライベートポートの 2 種類に分けられます。プライベートポートとアップリンクポートは相互に通信可能ですが、プライベートポート間では原則として一切通信ができません (同じグループのプライベートポート間では通信可能)。Private VLAN はレイヤー 2 スイッチとしての動作を前提とした機能です。

一方、Protected VLAN の所属ポートには、アップリンクポート、プライベートポートといった区別はありません。Protected VLAN では、同一 VLAN 内のレイヤー 2 通信はできませんが、他 VLAN とのレイヤー 3 通信は可能です。Protected VLAN はレイヤー 3 スイッチとしての動作を前提とした機能です。


なお、Private VLAN と Protected VLAN を同時に使用することはできません。

2.3 ポート認証 (802.1X 認証)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート認証」](#)

スイッチポート単位で LAN 上のユーザーや機器を認証するポート認証 (802.1X 認証) 機能に対応しました。

2.4 Ping ボーリング

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「Ping ボーリング」](#)

ICMP Echo メッセージ (Ping パケット) を利用して監視対象機器をボーリングし、機器からの応答パケットを定期的に確認する Ping ボーリング機能が追加されました。本機能を利用すると、機器からの応答が途絶えたときや回復したときに、経路変更などのトリガースクリプトを自動実行できます。

3 本バージョンで修正された項目


ソフトウェアバージョン 2.6.4 p106 から 2.6.4 p107 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 CREATE SWITCH TRUNK コマンドを 7 回以上実行すると、ポートトランキングが動作しなくなりましたが、これを修正しました。
- 3.2 スパニングツリープロトコル (Rapid モード) の使用時に dot1dStp MIB の値が正しくありませんでしたが、これを修正しました。
- 3.3 複数の STP ドメインに所属しているポートに対して SET STP PORT コマンドを実行するとき、STP ドメイン名の指定を省略すると PATHCOST や PORTPRIORITY の変更がすべての STP ドメインに反映されないことがありましたが、これを修正しました。

4 本バージョンでの制限事項


ソフトウェアバージョン 2.6.4 p107 には、以下の制限事項があります。

4.1 SHOW USER コマンド

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「ユーザー認証データベース」](#)


Telnet ログイン時に RESET ASYN=0 を実行すると、シリアルコンソールからのログインセッションが強制的終了されますが、SHOW USER コマンドの「Active (logged in) Users」欄には「Asyn 0」からログインしたユーザーが残ったままになります。

4.2 RADIUS Access-Request パケット

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「認証サーバー」](#)


RADIUS サーバーに Access-Request パケットを送信するとき、NAS-Port 属性を含めません。

4.3 ログ

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」**


- ADD LOG RECEIVE コマンドの設定がシステムを再起動するまでは有効になりません。ADD LOG RECEIVE コマンド入力後は、設定を保存し、システムを再起動してください。
- ログメッセージフィルターの設定 (ADD LOG OUTPUT コマンド) において、MODULE パラメーターに SWITCH を指定しても (MODULE=SWITCH)、スイッチングモジュールのログが出力されません。これを回避するには、スイッチングモジュールの ID である 87 を指定してください (MODULE=87)。
- SHOW LOG RECEIVE コマンドの RECEIVE パラメーターに値を指定しても、項目の絞り込みが行われません。また、MASK パラメーターを指定するとエラーになります。

4.4 トリガー

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「トリガー」**


CREATE TRIGGER コマンドの REPEAT パラメーターに回数 (count)、NO、ONCE のいずれかを指定した後、設定をファイルに保存すると、設定ファイル上の REPEAT パラメーターの値が入力時とは異なる場合があります。このようなときは、EDIT コマンドで設定ファイルを開き、REPEAT パラメーターの指定を修正してください。また、設定ファイルを PC などで作成し、本製品にダウンロードする方法もあります。

4.5 SNMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards がカウントされません。
- topologyChange トラップと newRoot トラップが送信されません。
- dot3StatsCarrierSenseErrors の値が取得できません。

4.6 NTP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」**


- NTP による時刻取得ができなくなることがあります。そのようなときは、RESET NTP コマンドを実行してください。
- SET NTP UTCOFFSET=NONE を実行した後、設定を保存して再起動すると、起動時に「Invalid zone or time for UTC offset.」というエラーメッセージが表示されます。タイムゾーンをデフォルト値に戻す場合は、SET NTP UTCOFFSET=UTC (または GMT) のように指定してください。

4.7 SET TTY コマンドのPAGE パラメーター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」


SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できません。

4.8 SHOW SWITCH COUNTER コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

RIP が有効化されているインターフェースがリンクダウンしていると、SHOW SWITCH COUNTER コマンドの Transmit/Discards がカウントアップされます。

4.9 ポートトランキング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- ポートトランキングと RIP を併用しているとき、トランクグループの所属する IP インターフェースがダウンすると、他の IP インターフェースから送信される RIP Response パケットの始点アドレスに、ダウンしたインターフェースのアドレスがセットされます。
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドで複数のトランクグループを作成後、設定を保存して再起動すると、トランクグループの設定が作成時と異なる順序で読み込まれるため、表示上の順序が変更されます。なお、動作には問題ありません。
- トランクグループをマルチプル VLAN (Private VLAN) のプライベートポートとして使用している場合、SHOW CONFIG DYNAMIC=SWITCH を実行しても、ポートトランキング関連のコマンドが表示されません。これらのコマンドを確認するときは、SHOW CONFIG DYNAMIC でコンフィグ全体を表示させてください。なお、本現象は表示だけの問題であり、動作には問題ありません。


4.10 スパニングツリープロトコル

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」

- STP ドメインの所属 VLAN にタグ付きポートを割り当てると、DISABLE STP PORT コマンドの設定が削除されます。STP ドメインの所属 VLAN にタグ付きポートを割り当てるときは、DISABLE STP PORT コマンドで STP を無効にしたポートがないかどうかを確認してください。
- ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドによる各ポートの STP 無効の設定が削除され、STP が有効になります。DISABLE STP PORT コマンドの実行後に ENABLE STP コマンドを実行しないでください。実行した場合は、DISABLE STP PORT コマンドを再実行してください。
- スパニングツリープロトコル (STP) の動作モードを変更すると、STP が無効になっているポートから BPDU が 1 パケット送信されます。


- スパニングツリープロトコル (STP) 有効時に ADD VLAN PORT コマンドを実行すると、VLAN 内のすべてのポートにおいて、STP のポートステータスが初期化されます。

4.11 ハードウェア IP フィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」


EPORT パラメーターを指定した場合、フィルター対象パケットの終点 IP アドレスが L3 テーブルに登録されていないと、NODROP アクションが機能しません。L3 テーブルに登録されているときは正しく動作します。

4.12 ポート認証 (802.1X 認証)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

- Multi-Suppliant モードの Authenticator ポートでは、Port Status が authorised でも IGMP Query パケットがフラッディングされません。
- DISABLE PORTAUTH コマンドを実行しても、認証済み Suppliant のスイッチフィルターエントリが削除されません。
- Multi-Suppliant モードの Authenticator ポートにおいて、サービスパック 2 (SP2) を適用した Windows XP を Suppliant として使用すると、ログインダイアログが表示されないことがあります。

4.13 TRACE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

SET TRACE コマンドのパラメーターに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがあります。

4.14 ディレクティブブロードキャストパケット

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

特定 VLAN に対するディレクティブブロードキャスト転送をオンにしている場合、ブロードキャスト MAC アドレス (FF-FF-FF-FF-FF-FF) 宛てのディレクティブブロードキャストパケットを (別 VLAN で) 受信すると、それ以降、本体 MAC アドレス宛てに送信された通常のディレクティブブロードキャストパケットを転送できなくなります。

4.15 IP インターフェース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

ADD/SET IP INTERFACE コマンドで他の VLAN と重複するネットワークアドレス (IP アドレス / ネットマスク) を指定しても、エラーになりません。重複したアドレスを設定しないよう注意してください。

4.16 SHOW IP ROUTE コマンド

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「経路制御」](#)

SHOW IP ROUTE コマンドでは、リンクダウンしているインターフェース (VLAN) 名の後に「#」が表示されますが、VLAN ID が 4 桁の場合は「#」が表示されません。これは表示だけの問題であり、動作上の問題はありません。また、SHOW IP INTERFACE コマンドでは、VLAN ID が 4 桁でも「#」が表示されます。

4.17 ネクストホップが自分自身である経路

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「経路制御」](#)

ネクストホップが自インターフェースアドレスと一致している経路を IP の経路表に登録してまいります。

4.18 ARP

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「ARP」](#)


- マルチホーミングした IP インターフェース上にスタティック ARP エントリーを登録する場合、存在しない論理インターフェースを ADD IP ARP コマンドの INTERFACE パラメーターに指定すると、システムがリポートします。存在しないインターフェースを指定しないようご注意ください。
- Gratuitous ARP パケットの受信時、受信インターフェースと異なるネットワークの IP アドレスであっても、そのアドレスを ARP キャッシュに登録します。

4.19 DHCP リレー

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「DHCP/BOOTP リレー」](#)


パケット長 346 Byte 未満の DHCP パケットがリレーされません。

4.20 IGMP

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP」](#)

- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Leave メッセージを受信すると、同タイマーが更新されます。
- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。

4.21 IGMP Snooping


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPマルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

SET IGMP Snooping ROUTERMODE コマンドでパラメーターに NONE を指定しても、224.0.0.1 および 224.0.0.2 からのマルチキャストパケットを受信した場合には All Group を作成します。All Group を作成しない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドを使用してください。

5 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および CD-ROM に収録されている「CentreCOM 8624EL コマンドリファレンス 2.6 (Rev.B)」の補足事項です。


5.1 HTTP サーバー（サポート対象外）

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

5.2 システム時刻とログ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

- 本製品はリアルタイムクロックを内蔵していないため、再起動するたびにシステム時刻が 1999 年 1 月 1 日の 0 時 0 分 0 秒に戻ります。ログなどの記録日時を正確に保つため、可能な限り NTP の利用をおすすめします。
- syslog サーバーにログを転送するときは、NTP を併用してください。

5.3 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレーム


受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

5.4 拡張モジュール AT-A46

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

本製品において、拡張モジュール AT-A46 は AUTONEGOTIATE（オートネゴシエーション）による 1000Mbps 通信のみのサポートとなります。

5.5 拡張モジュール AT-A47

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


 **参照** 「取扱説明書」 15、115 ページ

ソフトウェアバージョン 2.6.4 p107 で拡張モジュール AT-A47（GBIC スロット×1）に対応しました。オプション（別売）の 3 種類の GBIC モジュールが実装可能です。GBIC モジュールの取り付けかたや仕様については、GBIC モジュールのインストールガイドを参照してください。

- ・ AT-G8SX 1000BASE-SX


- ・ AT-G8LX 1000BASE-LX
- ・ AT-G9ZX 1000M SMF (90km)

5.6 ポート帯域制限機能の受信レート上限値とTCP通信のスループット

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

スイッチポートに受信レート上限値 (INGRESSLIMIT) を設定している場合、同ポートを経由したTCPの通信では、TCPデータのスループットが設定した上限値よりも低くなります (低下の度合いは通信状況に依存します)。これはTCPプロトコルの特性として、帯域制限機能によって破棄されたパケットの再送処理などが発生するためです。また、TCP以外においても、同様の再送処理を行うプロトコルではこの現象が発生する可能性があります。

5.7 フォワーディングデータベース

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」**

初回のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されないことがあります。ただし、2回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

5.8 DHCP/BOOTP リレー

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」**

マルチホーミングとDHCP/BOOTPリレーは併用できません。

6 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド
ENABLE、ADD、SHOWなどの後に[?]キーを押すと表示される機能別キーワードです。
CLASSIFIER、DHCP (SET DHCP EXTENDIDは除く)、ENCO、ETH、GARP、GUI、HTTP、LDAP、OSPF、PKT、PKI、SERVICE、SKEY、SSH、SSL、TACPLUS、TEST、TACACS、VLANRELAY、VRRP
- 以下のコマンド (パラメーター)
ADD/DELETE/SET/SHOW SNMP GROUP
ADD/DELETE/SET/SHOW SNMP TARGETADDR
ADD/DELETE/SET/SHOW SNMP USER
COPY
CREATE/SET TRIGGER [BEFORE] [AFTER] [DATE] [DAY]
CREATE/SET TRIGGER TIME
CREATE/SET LOG OUTPUT [MAXQUEUESEVERITY] [PASSWORD]
[QUEUEONLY] [DAY]
CREATE/SET LOG OUTPUT DESTINATION=ROUTER

DUMP
LOAD [METHOD=LDAP] [ATTRIBUTE] [BASEOBJECT]
SET SYSTEM HOSTID
SET SYSTEM TERRITORY
SET SYSTEM RPSMONITOR
SET SYSTEM DISTINGUISHEDNAME
SET SYSTEM DISTNAME
SHOW SYSTEM TEMPERATURE

ENABLE/DISABLE/SHOW SWITCH BIST
SET/SHOW SWITCH SOCK
SET SWITCH PORT [SPEED={10MHAUTO ; 10MFAUTO ; 100MHAUTO ;
100MFAUTO ; 1000MHAUTO ; 1000MFAUTO ; 1000MHALF ; 1000MFULL}]
SHOW SWITCH MEMORY
SHOW SWITCH SWTABLE

ADD/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER
ADD/SET IP INTERFACE [GRATUITOUSARP] [VJC] [OSPFMETRIC] [FILTER]
[POLICYFILTER] [PRIORITYFILTER] [MULTICAST] [IGMPPROXY] [ADVERTISE]
[PREFERENCELEVEL]
ADD/CREATE/DELETE/DESTROY/DISABLE/ENABLE/SET/SHOW IP MVR
ADD/SET IP ROUTE FILTER [PROTOCOL=OSPF] [POLICY=0..7]
ADD/DELETE/SHOW IP TRUSTED
ADD/CREATE/DELETE/DESTROY IP IGMP DESTINATION
ENABLE/DISABLE/SHOW IP ADVERTISE
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE
FINGER
SET IP AUTONOMOUS
SHOW IP CACHE
SHOW IP CASSI
SHOW IP POOL
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE MULTICAST
SHOW IP FLOW
PURGE PING TOTALLY
SET BOOTP MAXHOPS
TRACE [ADDRONLY]

7 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM 8624EL コマンドリファレンス 2.6 (J613-M0688-02 Rev.B)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0688-02 Rev.B」は、コマンドリファレンスの全ページ(左下)に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

